

「先生のための夏休み経済教室 in 大阪」記録

2017年8月7日（月）

<1時間目> 新学習指導要領の考え方・教え方 講師：東洋大学文学部 栗原久氏

- ・石川県の入試問題を紹介。アダム・スミスの国富論の引用をうけて、スミスのな経済政策と、ケインズのな経済政策について、その違いを文章で表現する問題であった。
- ・ALはあくまで手段である。
- ・時に、学び合いが、塾で学んだ生徒がそうでない生徒に教えるにすぎないことがある。
- ・教師が教えることに消極的になっていないか。肝心なことは、きちんと教えなければならない。
- ・「なぜだろう？」と思わせる発問の例として、「JRの新宿―八王子と、新宿―北上尾は、距離はほぼ同じである。では運賃は？」と問い、新宿―八王子の方が安い理由を考えさせ、競争について考える。
- ・授業で何かを判断する教材を考える場合、実は、何かを判断させるには、その判断の材料となる情報収集のコストがかかるものである。情報が多ければ、判断するのは困難である。ゆえに、判断材料が多いと、意思決定するのも大変となる。
- ・このような場合、「なぜ～が必要なのか」と考えてもいいが、「もし～がなかったらどうなるか」と考えてみることも大切である。
- ・できれば、今ある制度を前提とした授業ではなく、新しい制度設計を考えることも大切。

<2時間目> 学び合いの経済学習 講師：大阪狭山市立南中学校 奥田修一郎氏

- ・支援が必要な生徒の「先生の言葉は、漢字が多い。ひらがなでしゃべって」という発言から、授業についての自分のアプローチの方法について考えなおした。
- ・生徒の疑問などをまとめたのが、社会科通信である。
- ・子どもにとって切実なものとする「問い」を作っていくのがとても難しい。
- ・そのような教材の事例として、
 - ① ネット通販急成長の理由を考える
 - ② アラスカの日本人妻の悩み→公共財に対して、税金を使うかどうか判断する教材を考えた。
- ・「貿易」についての、教科書の記述の比較から、貿易のメリットとして、双方が得をする関係であるということ、どのように理解させていけばいいか、考えた。
- ・このまとめとして、「トランプ大統領に就任のお祝いの手紙を書こう」という活動を通じて、自由貿易のよい面・悪い面からとらえ（多面的にとらえ）、そのうえでの提言などを書いた文章を紹介された。
- ・最後に、奥田先生が、ワークシートのコメントを丁寧に書いていることを紹介された。子どもたちも、随分と論理的に表現できるようになってきた。

<3時間目> 日本一短い経済史 講師：筑波大学附属中学校 升野伸子

東京 8/17 の報告参照

<4時間目> 公民教育の理解の仕方・教え方 講師：同志社大学政策学部 野間敏克氏
東京 8/18 の報告参照

2017年8月8日(火)

<1時間目> 基礎から学ぶ株価 講師：東京証券取引所 鈴木深氏
東京 8/14 の報告参照

質疑応答

質問1 リスクマネーの行き場は？(京都女子中の先生)

回答 資金はより安全なところに行く。例えば、円買いに行く、国債に金利が低いが、そんな時株価は下がる。

質問2 下がったのは日本だけか アメリカはどうか。

回答 下がったのは日本だけである。

<2時間目> 記念講演 「経済学から見たアメリカの指標」

講師：同志社大学経済学部 鹿野嘉昭氏

① アメリカにおける経済政策と大統領の関係

- ・連邦予算の編成と議会の役割について。議会が賛成しないと、予算を伴う措置はできない。
- ・アメリカの予算編成過程と日本の場合の違いー
大統領は議会が決めた予算を執行するのみ。
経済政策は予算の執行を伴うものが多い。ので、大統領令にもなじまない。
- ・アメリカ連邦予算は、10月1日始まりで、その教書は5月23日に出たばかり。
- ・アメリカ連邦予算天井方式で割り当てられる。
- ・具体的な姿は、すべての予算が議会で承認された後でないといけない。
- ・連邦議会の予算審議がカギとなる。

② 予算教書から見たトランプ大統領の経済政策

- ・財政支出の削減対象は、主として低所得者向けの社会保障、温暖化対策、海外援助
- ・その一方で強いアメリカをめざす。
- ・貿易に関しては、トランプ政権の理解は、俗説を支持。

③ 貿易をめぐる現状

- ・貿易の意義についての説明…自由貿易のメリット、保護主義の台頭、
アメリカの繊維産業の衰退、日米貿易摩擦
- ・東アジアを中心に、増える中間財の貿易のデータ
- ・貿易収支の決定の一般理論 などを紹介された。

質疑応答

質問1 海外の赤字、黒字の意味は？(関本先生)

回答 アメリカは足りないので、海外から借りている。日本は足りている。黒字なので、

海外に貸している。国際収支表と同じである。

質問2 EUの今後の見通しは？（奈良学園山本）

回答 イギリスはEUに入っていて、ユーロに入っていない。
シェンゲン協定（条約）にも入っていない。EUはあまり大きな変化がないように、期待したい。3年後をみましょう。

<3 時間目> エコノミストと授業を作る<財政と税の授業>

講師：神奈川県立平塚農業高等学校初声分校 金子幹夫氏

- ・本講義では、3つの実践の報告がなされた。
- ・1つめは、まず、架空の生徒会長選挙より、多数派（バス通学者）と少数派（自転車通学者）がいる時に、選挙の結果から「多数派グループがいる選挙」について目を向けさせるものである。
- ・その後、選挙の公約に、時間軸を取り入れ、在学期間の長短によって、すぐ実現できる公約か、時間がかかる公約か、選択の判断が異なる事ことを実感させる。
- ・この2つから、日本の現実の選挙について、多数派を高齢者、少数派を若者とし、また在学期間が短い者は短期的な視点で政策を選ぶ傾向があることを理解させる。
- ・最後に、実際の政策について、政党が発表しているマニフェストを日本か世界か、今か未来かという軸にわけて、分類しながら、政策の評価の視点を身に付けさせる
- ・2つめは、同窓会会長選挙についての意思決定をさせ、OBの意思決定の類推から、現在の日本の人口構成の場合は、どのような意思決定がされやすいかを考えさせた。
- ・3つめは、税金を納めるということを、歴史との関連で学び、歴史と公民では税の扱い方が異なっている事、それは、民主主義の下での税と、それ以前の税とは質が異なる、と報告された。
- ・3つの実践を通じて、政治や政策について考えるきっかけや、政策を評価する視点を生徒に身につけさせる工夫が伝わってきた。

野間敏克先生からのコメント

- ・金子先生のとて熱い授業の報告に感動した。全般的に、目標が明確ですっきりしている、飽きさせない活動型の授業であり、熱意と正義感が伝わってきた。
- ・気になった点として（細かすぎたらご容赦）、生徒会長選挙では、政策には短期的なものも長期的なものもあり、高齢者が長期的なものを支持しないとしたら、その理由はどこにあるかを考えさせてもよいと思う。
- ・マニフェストの仕分けなどの視点や生徒によって判断基準が異なった理由などを指摘した。

質疑応答

質問1 この同窓会の票は作ったそうだが、年配者は自分のことしか考えていない生徒はどう思ったのか、聞きたい。（竹内）

回答 授業はメッセージ性を大切にしている。授業前の事前調査を綿密にして、高齢者が

絶対に勝てる数字にしてある。自分のことしか考えない高齢者を出したかった。

質問2 学力的に低い子に対して、最初の5分間をどうしているか。

回答 ステロイド剤のように入る場合とやんわり入る場合と分けて、導入を入れるように工夫している。

<4時間目> 豊かさとGDP 講師：日本大学経済学部 小巻泰之氏

東京 8/15 の報告参照

以上 文責 筑波大学附属中学校 升野 伸子